

# 五郎沼通信



第20号 平成30年5月発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。  
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」  
事務局 瀬川峰雄  
紫波町南日詰字小路口70-1

電話：019-672-2656  
FAX：019-601-2686  
携帯：090-2270-6771  
m-mail：segawa@mineo.jp  
Pcmail：info@shiwakankyo.com

## 五郎沼の桜見物に大勢が！ 桜を守る会、開花前に環境整備

今年の盛岡市の桜の開花宣言は4月17日でしたが、1日遅れの18日が五郎沼の桜は開花でした。今年の冬は雪が多く長く感じましたが、3月になってからの関東以南からの情報だと、桜の開花前線は早い感じでした。このままだと、昨年より一週間も早いのではとの想像でしたが、実際は昨年と同じくらいの開花日となりました。しかし、開花してからは暖かい日が続き、3日間くらいで散ってと本当に短く感じました。

また、城山の桜も同じだったらしいですが、今年の桜の花の色が薄く感じた方が多かったようです。そこで、左記に出席者表示で許可をいただき、花の色が薄くなる見解をネットで探してみました。

『桜の花びらの色素は、とても薄いですが、アントシアニンと呼ばれる花や野菜、果実などにも含まれる植物色素です。いまはやりのポリフェノール構造を持ちます。具体的には、シアニジン、フラボノイドと呼ばれる色素が主で、実は、桜の若芽の赤い色も、紅葉の赤色も、サクランボの赤色も主



例年以上に観光客が来ていました



環境整備作業は雨降りで大変でした

Q：日本植物生理学会の「植物Q&A」内での名古屋大学、吉田教授の返答より

として同じ色素により色素は、クロマメの色素も同じです。色素の量の多少によります。もし、桜の花びらの色が薄くなっているとしたら、色素の合成量が減ることが最も考えられますが、一般的にアントシアニンの合成は、さまざまな条件により変わります。光や温度、栄養状態など、どんな花の色にも濃い薄いがあるのと同じです。もうひとつ、花の色の濃淡は、花弁の表面の細胞の形にも影響されます。光の乱反射の影響で、平べったい細胞がならんでいると薄く、とがった細胞がならんでいると濃色にみえます。むしろ、毎年同じ程度の濃さの花が咲くために、さまざまな遺伝子による制御が行われています。』

## 「紫波町地域づくり活動補助金」申請！



公開審査会の様子

紫波町では、地域で頑張っている団体へ活動補助金を出す制度があります。当会の趣旨には五郎沼の環境整備がありますが、会員・地域住民の素人ボランティアだけでは、環境整備しきれない部分もありますので、プロにお願いする資金の補助のために、その「紫波町地域づくり活動補助金」に今回申請してみました。

地域づくり活動補助金への申請団体は、去年は3団体と少なかつたらしい

ですが、今年は7団体と倍以上でした。毎年この時期に各団体プレゼン会（公開審査会）があり、今年3月25日にオガールプラザ図書館前の情報広場で開催されました。



大きくなりすぎている雑木

当会の事業提案は五郎沼の堤体にある、写真のような20本ほどある（20m位の）大きな雑木の伐採です。ボランティアだと大変危険な作業でありますので、伐採はプロに委託し、枝などの片付けをボランティアにて行います。



2年前の伐採の様子

予定は来年冬の1~2月予定です。枝の片付けのご協力宜しくお願いします。

.....お知らせ.....

「五郎沼の桜を守る会」総会

日時：6月18日（月）18:30~  
場所：箱清水公民館  
※当日、平成30年度会費2千円をお願いいたします。

# 五郎沼の草花

沼の堤体には桜以外に草花もたくさんあります。今回より地元にお住まいの三田地節子さんより説明を受けご案内します。今回は「黄花」です。



学名：黄菖蒲 (キショウブ)

多年草（春に咲く）……水の中に根をおろして水から立ち上がって、美しい黄色な花を咲かせる。明治の中頃、渡米した物でどこでも普通に見られる花。



学名：ハハコグサ

多年草（春からずっと咲く）……春の七草のひとつ。麦の栽培と共に朝鮮半島から来たと言われている。よもぎより以前に草餅の材料に使用された薬草としても使われた。



学名：カタバシ

多年草（春に咲く）……名前の由来は葉の一部が欠けているように見えることからであり（別名オキザリス）3枚の葉はハート形で互生（互い違いについで）している。



学名：コナスビ

多年草（春から咲き始める）……気化植物で広く生育する。道端や公園畑などに普通に生ける。名前の由来は果実が小さなナスのミニチアのようなのでコナスビと付けられた。



学名：コオソリナ (顔剃葉)

多年草（初夏から咲き始める）……全体に赤褐色のお剛毛があり、ざらつく葉の緑を顔に当てると感触が剃刃で剃っているような感じがするのでコオソリナと名付けられた。

## 五郎沼が築堤されたころ・比爪藤原氏の時代（8）

県立博物館が平成26年開催「比爪 もう一つの平泉」から抜粋して、石幡さんに投稿していただきました。

### 阿弥陀堂浄土庭園と大莊嚴寺

比爪館内には「大莊嚴寺」という寺院があったことが想定されている。現在、比爪館の南西部には「薬師神社」が鎮座しており、この薬師神社は大莊嚴寺の「鎮守社」と推測される。また薬師神社南側の箱崎家（屋号・後松原）の敷地内（字箱清水一八七、二）には阿弥陀堂があり大莊嚴寺ゆかりとされる阿弥陀如来坐像が安置される。

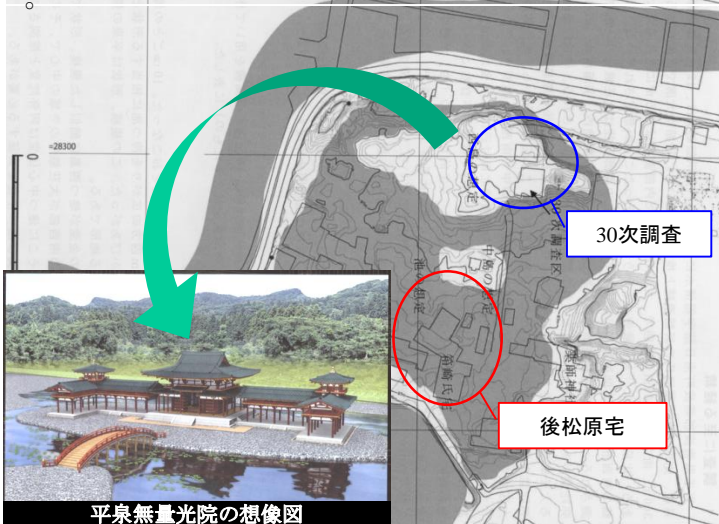


阿弥陀如来坐像

後松原箱崎家に伝わる大莊嚴寺から渡された天保二年（一八三一年）の「遺證文」から、後松原箱崎家の屋敷地が「阿弥陀堂古地面」と称されていたことが読み取れる。これらのことから、比爪館内

における大莊嚴寺の位置は、その大溝で囲まれた範囲全体の中で南西部と推測される。また、薬師神社の西側から後松原箱崎家の屋敷地北西付近には、「金比羅池」という池があったと伝承されている。実際、この付近は周囲に比べて標高が不自然に低くなっており、その範囲の西端には土墨状の高まりが確認され、人工的な造成の「池」が想定される地形を呈している。この地形の西側で、平成24年度の比爪館30次調査で、池の岸らしき堀込み跡（S X O 16）が紫波町教育委員会により検出されている（紫波町教育委員会 二〇一三）。

寺院、池の所在を想定して、この周辺の地形測量をおこなった。10cmほどの等高線の微細な地形図を作成したところ、約100m四方の広がりを持つ池に相当する形状と、その西端に楕円形の島状の地形の高まりが浮かびあがった。この規模、形状は平泉の無量光院と同規模の阿弥陀堂浄土庭園が想定できる地形である。



西側の土墨状の高まりは、無量光院の金堂が建つ西島に酷似した規模、形状である。これらのことから、この比爪館区画内部の南西部が大莊嚴寺の寺域の中心で、その形態は、園地を有する浄土庭園型式の寺院で、そこに建つ中心仏堂は阿弥陀堂と推測される。今後の課題として、発掘調査により、寺院及び池の存在を実証する必要がある。

前平泉文化関連遺跡調査報告書 岩手県立博物館（二〇一六）より